

第二幕

羽尻まるごと



四十八滝



- ① いもじが滝
- ② 長持ぶち
- ③ じょろ滝
- ④ 蛇つぼ
- ⑤ 源太夫滝
- ⑥ 出合いの滝
- ⑦ ますらお滝
- ⑧ 鉄砲滝
- ⑨ 恐れ滝
- ⑩ 思案ぶち
- ⑪ 座禅の滝
- ⑫ 百畳がぶち
- ⑬ 冥想がぶち
- ⑭ 獅子が滝
- ⑮ 龍が滝
- ⑯ 月照滝
- ⑰ 回廊がぶち
- ⑱ 夫婦滝
- ⑲ よろいの滝
- ⑳ 乙女滝
- ㉑ 千畳なめら
- ㉒ 不老の滝

- ㉓ 如来滝
- ㉔ にごり滝
- ㉕ くぐり滝
- ㉖ しょんべん滝
- ㉗ 龍王滝
- ㉘ 小不動滝
- ㉙ 不動滝
- ㉚ 欧穴がぶち
- ㉛ 二段滝
- ㉜ みだれ滝
- ㉝ くずれ滝
- ㉞ 八連の滝
- ㉟ 紅葉の滝
- ㊱ すべり滝
- ㊲ 五色なめら
- ㊳ 岩切り滝
- ㊴ かえでの滝
- ㊵ 三連滝
- ㊶ 桜（もみ）が滝
- ㊷ 磨崖滝

阿
A

瀬
SE

4

8

主な滝には看板が
付いています☆
地元の方の愛情を
感じます。



阿瀬溪谷

至蘇武岳・金山廃村



阿瀬溪谷マップ

①いもじが滝

鋳物師(いもじ)がその美しさに見とれ、ここから進まなかったと言われています。



台風などの自然災害に弱いのが、このような地方の山間地。道が崩れていたり、橋が流されていたりもして、凄く怖かったよ…。子どもも安心して来られる場所になるといいな。

(;_;)



⑤源太夫滝

源太夫という豪傑の伝説から名づけられています。



必見



阿

瀬

五

瀑

⑨恐れ滝

岩の形が恐ろしく、恐怖感を与えます。



②9不動滝

不動尊の分身として崇められています。



阿瀬溪谷のトレッキングは、結構ハードです!!
靴ずれや転倒など、痛い目にあわないよう、服装にはご注意ください!



②7龍王滝

阿瀬溪谷最大の滝。この写真を撮った前日には大雨が降っており、かなりの水量がありました。地元の方の話によると、**矢印のところ**の岩は、水圧によって7メートルも下に掘り下げられていると言われています。

龍王滝は特に迫力満点!!

今度来たときには48カ所全部の滝を見てみたいな!!



コレも必見★



※熊対策※
複数人で行動しましょう☆

たおれ岩

昔、この大岩は崖の上であり、下が空洞で雨宿りの場所となっていました。しかし、江戸時代の終わりごろの12月24日、大岩は倒れ落ちたそうです。この直前まで大岩の下で休んでいた金山の村人達は間一髪で助かったと言われています。それ以来、不動明王のおかげと金山不動尊を丁重に祀り、12月24日を金山集落の休日と定め、離村まで守り伝えられました。



オートキャンプ場

観

「観光百選」にも選ばれた美しい阿瀬溪谷の入り口に位置しているのが湯の原温泉オートキャンプ場です。阿瀬溪谷と蘇武岳をはじめとする山々が周囲を取り囲んでおり、大自然を満喫できます。



遊具広場

この他にもバーベキュー棟など羽尻の自然を活かした施設がたくさんあります。

コテージ



親水広場



サークルや部活動の合宿地として使えそうだね。



餅つき大会

湯の原温泉オートキャンプ場では様々なイベントが行われています。家族で楽しめるキャンプ場となっているんだね！！



ニジマスの塩焼き

魚つかみ大会

ヤマメやニジマスが名産なんだね。うーん、美味しそう！



美しい景色を一望

ゆのはらおんせん

湯の原温泉

大自然を眺めながら温泉に入れる幸せ♪



阿瀬の湯



阿瀬の湯（露天風呂）

癒す

■営業時間

平日 13:00～20:00
土・日・祝祭日 11:00～20:00
7・8月は全て 11:00～20:30

■料金

大人 500円
子ども 300円
○湯の原温泉オートキャンプ場

☎ 0796-44-0001

URL <http://yunohara.net/>

露天風呂
だー！！



蘇武の湯（露天風呂）

ナチュロ バロリスの森

キャンプの合間に、
温泉の行き帰りに



そば粉のガレットはフランスのブルターニュ地方に伝わる伝統的な郷土料理

お腹いっぱい
食べられるよ！

食べる

メインは梢のささやきと澄んだ空気。あしらいは四季彩々の野山の幸。豊潤な温泉を備えた丸ごとの癒しの空間に、体にも心にも優しい手作りの味で迎えてくれるレストラン。美味しいお米の産地だから季節ご飯もプラスワン。あたりの野山から、地元の畑から届いた何よりのご馳走をガレットに、菜に包み食べる風趣スタイルが魅力。

■営業時間（※要予約）

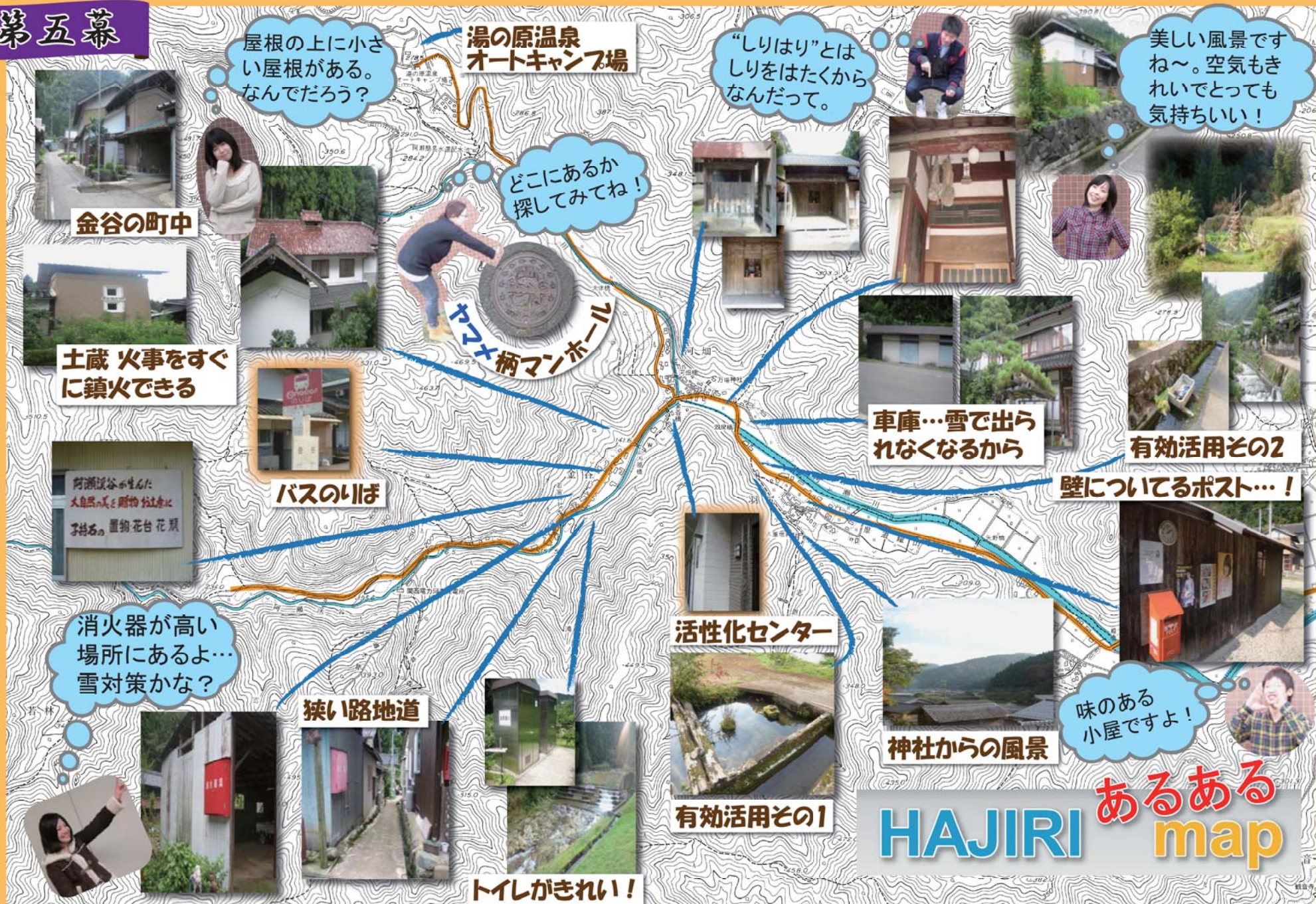
朝食：8:00～9:00
昼食：11:30～13:00
※水・木定休日
※お問い合わせは、
オートキャンプ場まで



いったい、どのようにすれば
多くの人が集まるのだろうか...

地域みんなで屋台
「いらっしやいませ〜」

第五幕



おわりに 羽尻・阿瀬溪谷盛り上げた〜い(隊)!! メンバーから羽尻へのエール

兵庫県立大学環境人間学部 3回生 杉本 梓

羽尻の魅力はたくさんありますが、私のいち多々あり、安全には気をつけなければいけません。阿瀬溪谷でのトレッキングです。ここで大自然の中に身を置くと、心身ともに洗は、日常では感じる事の出来ない大自然に触れたような気がします。日頃の疲れをリフレッシュすることができます。足場が悪いところなどもシユしたい方には是非ともお勧めしたいです！

兵庫県立大学環境人間学部 3回生 谷本 亜衣華

観光で「食」はとても重要なキーワードです。まず。大自然の中で食べる地元の味は価値がその場所では食べられない地域の食材も、お店で食べるのと、外で食べるのではまた違った味になります。例えば、トレッキングでの昼食はナチュロパロリスのお弁当があれば、自然を肌で感じながら舌でも羽尻を満喫することができます。

兵庫県立大学環境人間学部 3回生 大山 葵

羽尻に行き、実際に地元の方々と話してみても、やはり一番の羽尻の良さは「人」だと思います。金山廃村についてなど、自分たちの村の歴史をもう一度学び直そうとする姿勢や、オートキャンプ場などを活かした活性化について、地

兵庫県立大学大学院環境人間学研究科 修士1回生 住尾 旭美

羽尻には誇れる滝、四季折々に変化する美しい山、なつかしいにおいがする家並み、日本の原風景があります。廃村という悲しく辛い歴史をココロに刻みながら厳しい寒さにも負けない強くあたたかい地域のココロ。私はたくさんのコ

兵庫県立大学環境人間学部 准教授 三宅 康成 (INAKA 応縁隊指導教官)

かねてより羽尻のみなさんが地域に対して熱い思いをお持ちであることはうかがってまいりました。これまでの長い時間のなかで、みなさんが日々の生活と一体をなしながら、山や川、農地はもとより、文化やコミュニティに至るまで、営々と継承し大切に守られてきたことに心から敬意を表したいと思います。今に至る大きな環境の変化によってなかなか思うような地域像を描くことができないもどかしさがあるでしょう。人が減り、いろいろなことが今までと同じようにできない苦しい現状から、後ろ向きのお気持ちにな

兵庫県立大学環境人間学部 3回生 蘆田 裕貴

羽尻の自然にとっても魅力を感じました。特に阿瀬溪谷の滝はとて迫力があり、滝を間近で見るといことはなかなか体験できないことです。尻の「食」を通して、羽尻の「文化」をより多くのの人に知ってもらえるようにできたら、より魅力的な地域になるのではないのでしょうか。

兵庫県立大学環境人間学部 3回生 林 和幸

湯の原温泉オートキャンプ場と羽尻金山のホームページはリンクしているものの、別々に存在しているというのは羽尻という地域をPRする上でもったいない気がします。温泉施設もしっかりしているので、PRを効果的に行えば幅広い人に満足していただけるのではないのでしょうか。

兵庫県立大学環境人間学部 3回生 山田 俊輝

たくさんの自然に囲まれ、空気もきれいでとても気持ちいい所です。阿瀬溪谷 48 滝も迫力満点です。都会で暮らしている人には、なかなか経験できない気持ちよさのある地域です。金山廃村など悲しい歴史もありますが、今まで多くの人たちが住んでは文化や歴史を作ってきた

豊岡市経済部 谷岡 慎一

皆様方の地域愛と熱心な取り組みに敬意を表します。皆様の取り組みが実を結び、羽尻地区が活性化することを祈念いたします。

豊岡市経済部経済課 柳沢 和男

地域のみなさんが、自分の村を好きでいること、そして誇りを持つことが第一歩。少しずつ、少しずつがんばりましょう。

豊岡市経済部経済課 岸本 直幸

蘇武岳から金山峠、阿瀬溪谷、羽尻集落へと至る現地確認に参加しました。金山峠から廃村、阿瀬溪谷は自然に触れられ、心身ともにリラックスできるととても良い場所だと思います。特に不動滝の下はマイナスイオンが降り注ぎ、

たいへん気持ちよかったです。ガイドを養成し、金山も含めて森林セラピー効果が体験でき、オートキャンプ場等も利用してリラックスできるメニューができると良いですね。羽尻の楽しくて良いところをPRしていきましょう。

NPO法人地域再生研究センター 研究員 浜本 晃司

阿瀬溪谷紅葉まつりに参加し、お昼にいただいた「山菜弁当」。とても美味しかったです。「食」が羽尻の魅力を多くの人に伝え、新たな観光客を通じた地域おこしも考えられます。また、羽

NPO法人地域再生研究センター 理事長 門上 保雄

地域再生は、地域らしさ、地域のお宝（資源）探しから始まることが多いです。同じように見えても、気候や土地の形状などの環境の違い、歴史の違い、何よりそこに住む人の違いにより地域らしさは独自のものなのです。私たちは、その一端を見せてもらい、味あわせていただきました。村の一人お一人からむらづくりに向